報告書抄録

| ふりがな | |
|--------|---|
| 書名 | |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 京都府遺跡調査報告集 |
| シリーズ番号 | 第156冊 |
| 編著者名 | |
| 編集機関 | 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター |
| 所 在 地 | 〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番の3 Tel. 075 (933) 3877 |
| 発行年月日 | 西暦2013年3月31日 |

| ふりがな | ふりがな | コー | ド | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---------------------------|---|-------|----------|-------------|--------------|--|-------|------|
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡 番号 | 。,,,,, | ° ' '' | | m² | |
| | きょうとしかみぎょう くかみちょうじゃまち うらもんひがしいるす はまちょう 京都市上京区上長者 町通裏門東入須浜町 | 26102 | 2 234 | 35° 01′ 23″ | 135° 44′ 49″ | 20120525 ~ 20121227 | 1,330 | 庁舎建設 |
| とうきょうだいせ んよんじゅうろく じ | ながおかきょうしちょうしちょうしちょうした。 うしちょうしにちょうめ 長岡京市調子2丁目 | 26209 | 107 | 34° 54′ 41″ | 135° 41′ 25″ | 20120719 ~ 20120830 | 200 | 道路建設 |
| でやしきいせき出屋敷遺跡 | きづがわしかもちょう おおの 木津川市加茂町大野 | 26214 | 233 | 34° 45′ 10″ | 135° 51′ 40″ | 20120524 ~ 20120620 20120823 ~ 20120914 | 290 | 道路建設 |

備考:北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | |
|--------------|-----------|---|-------------------|---------------------------------|---|--|--|
| 平安宮跡・聚楽第跡 | 宮殿平城 | 中世 | 石垣·濠·井戸·柱穴· 土坑 | 土師器・瓦器・瓦質土器・陶磁器・ 金箔瓦・鉄製品・石製品 | 聚楽第本丸南 辺の石垣を検 出。濠の埋土 から金箔瓦が 出土。 | | |
| 長岡京跡右京第1046次 | 都城 | 平安~中世 | 流路・柱穴・溝・土坑 | 土師器・須恵器・緑釉陶器・瓦器・ 瓦質土器・陶磁器・瓦 | | | |
| 出屋敷遺跡 | 散布地 寺院 | 中世 | 土坑 | 土師器・須恵器・陶磁器・瓦 | | | |
| 所収遺跡名 | | 要約 | | | | | |
| 平安宮跡・聚楽第跡 | | 平安宮の梨本院跡と聚楽第跡に相当する位置にあたる。平安時代の遺構は見つからなかったが、遺物は出土した。鎌倉〜戦国時代は内野とよばれる荒れ地であったといわれているが、今回の調査で土坑、井戸を検出し周辺で生活が営まれていたことが明らかになった。 聚楽第の遺構としては、本丸南濠の石垣がはじめて検出できた。石垣は、0.5~1.5mを測る自然石を用いている。いわゆる乱積みで、この時期の特徴を表している。 江戸時代以降は、井戸、聚楽土採掘土坑・廃棄土坑・礎石を検出し、遺物が大量に出土した。 町屋・屋敷地としての土地利用がうかがわれる。 | | | | | |
| 長岡京跡右京第1046次 | | 平安時代前期~中期にかけての流路・柱穴、近世と考えられる溝・柱穴を検出した。トレンチ全てにおいて長岡京跡右京第968次調査で検出された平安時代前期~中期にかけての流路 S D 36の延長部を確認し、1トレンチでは2時期に分かれることが判明した。出土遺物の様相は右京第968次調査と同じく古墳時代、奈良時代後半~平安時代中期にかけての遺物が多いが、瓦類の出土はほとんど認められなかった。また、3トレンチ周辺には柱穴が分布することから小規模な建物が存在した可能性がある。さらに、ミニチュアカマド・土馬等の出土から、周辺で祭祀が行われていた可能性もうかがえる。 | | | | | |
| 出屋敷遺跡 | | 遺構は検出できなかったが、各トレンチで木津川による水際堆積層を確認した。この水際堆積層からは古墳時代・奈良時代・中世の須恵器・土師器・瓦・瓦器などの遺物が出土している。土層の観察や周辺の地形から、出屋敷遺跡の中心部は調査地より南東に所在する現在の集落の下に広がると考えられる。 | | | | | |